

令和7年度第1回郡山市スポーツ推進審議会 議事録（概要）

I 開催概要

日時	令和8年2月4日（水）午後2時から午後3時25分まで
場所	郡山市役所本庁舎5階 教育委員会室
出席者	・委員（8名（12名中）） ・郡山市及び事務局（10名）文化スポーツ観光部長、文化スポーツ観光部次長兼スポーツ振興課
公開・非公開	公開
傍聴者	なし
議事	（1）審議事項及びスケジュールについて （2）会議の公開・非公開について （3）本市のスポーツ振興の取り組みについて （4）使用料の見直しについて（報告事項） （5）公共施設等総合管理計画及び個別計画について（報告事項） （6）その他

2 議事内容

（1）議題1 審議事項及びスケジュールについて

【事務局】

- ・本審議会で今期、検討していく審議事項について、①施設のあり方、②スポーツを通じた「選ばれるまち」について、③スポーツを通じた「暮らしの充実・笑顔になれるまち」について検討していくことを提案。
- ・今回の審議会のスケジュールについては、審議会を3回開催予定とし、①（仮）スポーツ振興施策による選ばれるまち・暮らしの充実について、②使用料減免の見直しについて、③施設のあり方検討（アイスアリーナ、スケート場）について意見交換を行い、今後の市の施策検討において活用させていただくことを提案。

【意見・質疑等】

異議なし。

（2）議題2 会議の公開・非公開について

【事務局】

会議の公開・非公開について、不開示情報（市情報公開条例第7条）の審議等を行うときや公開することにより審議に著しい支障が生じる場合を除き、原則公開となるが、今期の審議事項については、非公開の基準に該当しないと考えられるため、公開としてよいか。

【意見・質疑等】

異議なし。

（3）議題3 本市のスポーツ振興の取り組みについて

【事務局】

▼総括及び具体的な市の取り組みについて説明。

- ・スポーツイベントによる交流、にぎわいの創出
- ・トップスポーツ公式戦の開催によるにぎわいの創出
- ・トップスポーツとの連携による郡山市の魅力発信、地域活性化
- ・スポーツを「する・みる・支える・知る」による暮らしの充実
- ▼スポーツ振興による「交流・にぎわい」の創出
 - ・シティーマラソン・サイクルエイドジャパン等による交流人口の拡大・創出
⇒ 引き続き推進していく
 - ・トップスポーツの試合と食や観光コンテンツ等と掛け合わせ地域活性化につなげる
また、合宿やトップスポーツチームとの連携を通じて経済波及効果を狙う
- ▼スポーツを「する・みる・支える・知る」による暮らしの充実
 - ・対象別（①幅広い市民、②スポーツを体験したい市民、③競技力向上を目指す市民）に3つのアプローチ
- ▼施設特性に応じた施設マネジメント等
 - ・郡山市公共施設等総合管理計画に基づき、施設の規模、利用可能な競技等の特性、老朽化の状況及び稼働率等を総合的に勘案した、施設の管理運営を行っている
 - ・ソフトハード両面から持続可能な運営体制を構築していく

【意見・質疑等】

委員 「支える」に位置する、スポーツ推進員の人数・報酬などを教えてほしい。

事務局 任期：令和7年4月1日から令和8年度末まで（2年間）

人数：各地区合わせて89名に委嘱。

報酬：年額55,000円。

活動：各地区のスポーツ祭、市全体でシティーマラソンやふくしま駅伝などの大きな事業の際にはスタッフとして活動。パラスポーツについても、研修会に取り入れながら普及を促進している。

委員 スポーツ施設の合宿等利用について、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を開催するにあたり、合宿を誘致するために施設の一覧（パンフレット）があったと思うが、今後もコンテンツや案内についてどのようなサポートができるかについて、そういった情報を継続して作っていくという考えでよろしいか。

事務局 県において合宿等に関するパンフレットを作成している。また、市としては観光協会・観光政策課・旅館ホテル組合と連携し連絡調整をしながら、案内を継続していく。

委員 郡山市の方でもっと詳細なものがあればなお良い。パラスポーツを誘致する際も、バリアフリー情報などの詳細がわかるようなものがあると良い。県外からの地方合宿を考えているところも多いので、詳細な情報を提供できるようにしておくが良い。

委員 スポーツ施設の合宿等の利用について、現状の合宿利用人数と利用されている施設を教えてください。

事務局 合宿先として利用が多い施設は、①開成山屋内水泳場、②磐梯熱海地区のアイスアリーナ及び③郡山スケート場。アイスアリーナ、郡山スケート場は、県内唯一のスケート場であり各方面からの利用が多い。同じ熱海地区内には体育館もあり、東京の大学

生の合宿で利用されている。件数については年度でばらつきがあるものの、昨年度については熱海地区で3件程度、開成山屋内水泳場については合宿の規模にもよるが、10数件程度の利用実績があると聞いている。

委員 合宿利用については、補助金などは出るのか。

事務局 市からの補助金はないが、施設の予約の際に事前に調整するなど協力している。

事務局 合宿について、施設は基本的に市民利用がメインになるため、空いていないときもあるが、昨年あたりから観光協会が首都圏にアプローチする時に、直接施設管理者と連絡を取りながら空き状況などを提供するようにして、すぐにマッチングしている体制を整えている。

アプローチの際は、県を通して郡山市で合宿をしたいという需要もあるため、うまく連携をしていければと考えている。

委員 郡山は平坦で走れるところがあるため、駅伝の合宿地に適している。

長期の合宿となると、地元の人たちとの交流を通してその地域を知る機会にもなるため、郡山の良さを感じていただき、大学生などに持ち帰ってもらえればよいと思う。

議長 市の直営施設と指定管理者制度導入施設で、物品購入する場合、市と指定管理者での購入割合及び予算の取り方を教えてほしい。

指定管理者制度導入施設では管理者は修繕を行い、市で物品購入をするのか。

事務局 開成山地区は指定管理の協定書において原則、指定管理者が備品を更新することになっているが、指定管理者だけではニーズを的確にとらえることは限界があるため、市民からのニーズを聞きながら指定管理者に情報共有している。その他指定管理施設は、市が備品購入することもある。

限られた財源の中で、特定財源（＝市の税金ではない部分）を活用しながら備品を更新していく。

委員 福島ファイヤーボンズ戦の入場者数が伸びている要因は。

事務局 チームが強いこともあるが、Bプレミアに向けて、必要要件としての平均入場者数4,000人を目指して進めているとともに、チームが来客を促している。

エアリービーズについても、入場者数が1,600～2,000人と増加している。

宝来屋ボンズアリーナの改修と市の広報で力を入れていることが要因の1つかと思われる。

委員 ボンズの試合に行きたい地域の方々への情報が、どうしてもインターネットしかないイメージがある。

他の地域の事例を挙げると、チームの取り組みにはなるが、商業施設の一角にチームのクラブハウスがあり、そこでグッズ販売やチームを応援するような取り組みをしているケースがある。福島ファイヤーボンズやデンソーエアリービーズ、シティーマラソンなどについても、商業施設等に行ったときに目につくような「みる・知る」という部分で、情報発信基地のような場所が郡山市内にもあるといいのではないかと。

文化スポーツ観光部ということで、観光政策とタイアップできる状況であるため、観

光物産の場所の一角で、パラスポーツの紹介も含めて郡山市に関係するようなスポーツについて、一括で情報発信できるようになればいいと思う。また、ソフト面を発信できるようなハード（ブースなど）があればいい。

委員 福島ファイヤーボンズの試合では、ボランティアを集めることに非常に苦戦している。

1年間、郡山市で試合がなかった間に、須賀川市の高校生を中心に声かけていたが、再び郡山で試合が始まっても高校生が全く来なくなった。

予想される要因の1つとして、観客が多く大変という点。

アルバイトを仕方なく雇用しているが、そうになると、ボランティアよりもアルバイトの方が良いとなる。

ボランティアは楽しい活動であり、スポーツを支えながら楽しむ人たちがいるため、「ボランティア」という文言を入れていただき、支える方でも盛り上げていきたい。

事務局 実際、福島ファイヤーボンズの試合において、ルーターズで活動する生徒たちと話す機会があった。その際に、試合はボランティアの支えがないと開催できないと深く感じた。そのことをチームとの連携の中でもきちんと意識して進めていく。

委員 資料のうち、「支える」の項目にはスポーツ推進委員だけ載っているため、「ボランティア」の文言がほしい。

福島県障がい者スポーツ協会においては「大学連携」といって、福島大学、福島医大、医療創生大学及び郡山健康科学専門学校などと一緒に、年3回およそ100名（うち健康科学50名）の学生に、車いすの操作スキルや障がい者スポーツを学ぶ機会を設けている。

郡山市にはそういう人材がおり、学生がパラスポーツやその他高齢者スポーツを学んでいることから、スポーツ教室やパラスポーツの普及・推進など、いろいろなイベントに声をかけていただければ、支える人材として今後はきっかけとなって増えていくとともに、学校を卒業した後も継続していくという可能性も出てくる。

郡山市の非常に良いところは、こういった事業の中に障がいの有無にかかわらず、普通に参加できているというところである。障がい者スポーツを学んでいる学生が、一般のイベントでボランティアをすることで、経験を積むことができる。

「支える」の部分に、「ボランティア」及び「学生（大学等）との連携」について追加することにより、幅広い市民が対象の中で、「自分が入っている」という自覚や理解をしてもらえるのではないかと思われる。

議長 郡山市の行事の中で、率先してボランティアに参加していただいている事例はあるか。

事務局 郡山健康科学専門学校においては、シティーマラソンで学生ボランティアに参加いただいている。令和7年の場合、120人に協力いただいた。イベントの実施においては、スポーツ推進委員のみならず、ルーターズをはじめとするボランティアや学校、学生の協力がなければ実施できない面もあるため、改めて意識して進めていく。

(4) 議題4 使用料の見直しについて(報告)

【事務局】

資料に沿って説明し、御意見を伺った。

- ・使用料の見直しについて概要の説明(現状、見直しの背景、見直しのポイント、全体スケジュール等)
- ・使用料の減免について、今後のスケジュール概要等を説明。

【意見・質疑等】

委員 使用料について、アマチュアと興行系と区分されているが、市内と市外の区分はあるか。

事務局 その区分はない。

委員 いろいろな自治体でスポーツ施設を使用する機会があるが、市内の方には今まで通り施設を活用してもらって、市外の方には割増し料金を適用する市町村が多い印象がある。

市内/市外で少し差別化を図ると、市民がここに住んでいて良かったと思えるかもしれない。

事務局 郡山市の考え方として、「広域圏」という考え方もあり、高校生を含めて域外からの利用もある。事務的にも区別が難しいため、一律に料金を設定している。

委員 実際は、市内の団体等は減免が適用されて、市外の団体等は適用されないことから、実際に郡山市の施設を使用する場合、ルーターズは福島市に住所が置いてあるため、全く減免にならないが、市内の団体等は減免になる。
郡山市の場合は、100%減免になるため非常に影響が大きい。

委員 減免の適用範囲は本人限定か。(個人利用を想定)付き添いの家族等は対象にならないのか。

事務局 個人利用では個人に応じた減免が適用されるが、団体では市の主催、共催及び後援など事業全体(団体)として使用料を決めている。

個人利用で付添人がいる場合であっても、付添人が実際にプレーしているのであれば、そこは使用料を求めるようになる。

委員 他県から郡山市に来て、結構首都圏の場合は、個人利用でも団体利用であってもセットのような感じてあった。

事務局 美術館等であれば、付き添いは何名まで適用と決めている自治体も多い。
スポーツ施設の場合、実際にプレーする人が誰かによる線引きとなる。

委員 令和元年当時は、駐車料金は無料であった。今回、2025 北海道・東北パラ陸上競技大会を開催した際には、駐車場も減免が適用された。駐車場料金の減免制度はあるか。

事務局 現状として、共催事業の大会等であれば、駐車料金についても減免している。その点も含めて(今後)どういう減免をするのか。障がい者については、駐車場は別途市全体としての減免条例があり、そこに定められている。

委員 駐車場の有料化は浸透しているのか。

事務局 いろいろなご意見はあるが、公共施設の考え方と同様に、利用している方々に一定の負担をしていただかないと、市自体が成り立たない。そうでなければ、利用しない方も負担しているという構図となるため、駐車場有料化についても理解いただきたいところである。

減免規定については、次回以降の審議会においても、ご意見をいただきたい。

議長 減免については、今後も審議会にて話し合う。

(5) 議題5 公共施設等総合管理計画及び個別施設計画について（報告）

【事務局】

資料に沿って説明し、御意見を伺った。

- ・計画見直しについての概要の説明（策定の経緯、現状と将来の見通し、観点、個別計画等）
- ・「磐梯熱海アイスアリーナ」及び「磐梯熱海スポーツパーク郡山スケート場」のあり方について、今後の審議会で審議いただきたい旨を説明。

【意見・質疑等】

委員 ランニングコストは何年間の数字か。

事務局 1年間である。

委員 郡山スケート場の場合は、年間2億円もかかるのか。

事務局 ランニングコストは5年間の平均で算出しており、スケート場については（算出対象期間中に）大規模改修（冷凍機）を実施しているため、ランニングコストが大きくなっているが、通常の維持管理の場合は年間5,000万円くらいかかると見込まれる。

委員 開成山陸上競技場の5,000万円についても、改修工事も含めてか。

事務局 開成山陸上競技場のランニングコストは改修前の数字であるため、改修工事の分は除いている。ただし、PFI事業で改修したため若干事情は異なるが、ランニングコストは、指定管理者に支払う経費に変わる。その費用も5,000万円前後かかる。

事務局 スポーツ振興課の予算については、ソフト面が約1億円、施設の管理費が約10億円かかるため、通常管理するだけであっても、それくらいのコストがかかる。さらに、そこに大規模改修があると、別途費用が必要となってくる状況である。

議長 郡山スケート場については、「廃止」も含めて検討か？

事務局 結論ありきではないが、かなり老朽化しているため、単体のランニングコストだけでいうと、なかなか難しい部分もあるが、希少性がとても高いため、合宿でも使用されており、合宿利用者が宿泊するという状況もあることから、そこも踏まえてゼロベースで検討していく。

バックデータがないと検証できないため、経済効果など冬季施設の国の状況など踏まえて検討していきたい。

(6) 議題6 その他

【意見・質疑等】

特になし。